

DI 調査結果 (令和2年10月-12月期)

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『新型コロナウイルスの影響に留意する必要があるが
景況感は大幅に改善し底を脱した感はある』

【調査概要】

1. 今期(令和2年10月-12月期)の業況調査DI12項目では、2期連続で全項目がマイナスとなったが、「売上高」、「収益状況」が大幅に改善するなど、10項目で改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が▲2.7(前回▲62.4)、「収益状況」も▲10.9(前回▲65.0)と、大幅に改善され、大きく持ち直した。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲34.4(前回▲61.4)、「受注残」▲15.9(前回▲24.9)、「生産設備」▲15.0(前回▲27.9)と、持ち直しの動きがみられるが、引き続き厳しい状況にあり、一部では、いまだ休業を余儀なくされるところもある。
3. 来期については、「来期受注」▲1.2(前回▲26.5)、「来期採算」▲7.9(前回▲33.4)、「来期資金繰」▲8.4(前回▲30.5)と、大幅な改善がみられ、景況感は底を脱した感はある。
4. 「企業経営上の悩み」については、引き続き「受注不安定」が61.0(前回77.1)と新型コロナウイルス感染拡大の影響が出ている。一方、持ち直しが見られる事より「人材不足」が13.8(前回4.9)と上昇してきており、景況が戻りつつあることが伺える。
5. 米中貿易摩擦による景気失速に加えて新型コロナウイルスの影響が拡大して、厳しい状態にあったが、「売上高」など持ち直しを見せており、来期に更なる改善の兆しが見受けられる。しかしながら、依然として新型コロナウイルスの影響等により、状況が一変する懸念があり、国・県による更なる資金繰りや雇用維持などの経営安定対策とともに、国による各種規制改革による経済の活性化が必要と思われる。

